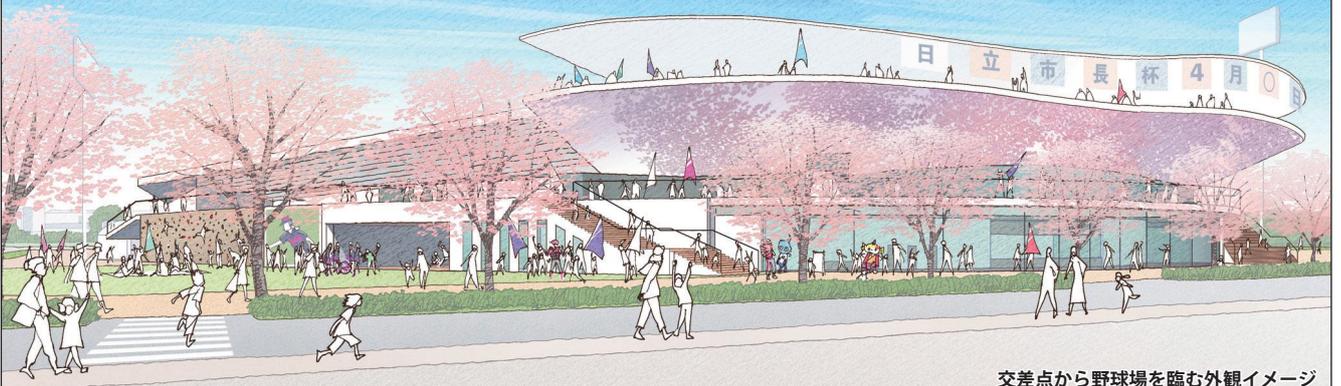


市民に等しく開かれた新しい野球場

～オールシーズン賑わう「日立さくらスタジアム」

「日立さくらスタジアム」3つのテーマ

 公園とつなぐ 景観をつくる 皆を集める



交差点から野球場を臨む外観イメージ

コミュニケーションと調和を重視した業務推進 業務の実施方針

丁寧なコミュニケーションを重視～「場づくり」と「見える化ツール」
 ・コミュニケーションの「場づくり」（総合調整会）と「見える化ツール」（課題シート・3D・模型）により、関係者との円滑な意思疎通を図ります。

市民運動公園との調和を重視～公園設計者の早期参入

・建築（野球場）とランドスケープ（公園）との一体化をテーマに、専門の公園設計者と同時進行で業務を進めます。

多様なニーズを把握し最適解を共に目指します 取組体制

柔軟で包容力のある体制で取組む

・市民球場づくりでは、野球関係者を始め多くの方の意見集約・反映が重要です。豊富な経験と知識を持つ体制で丁寧に耳を傾けます。

最適解へと着実にステップアップする体制

・課題はスピーディーに共有・検討し、既定案に固執することなく最適解が得られるまで粘り強く対応します。

野球場設計のプロチームに元プロの野球人を加えたメジャーチーム 設計チームの特徴

公園内野球場とまちなか野球場双方の実績を持つ設計チーム

・組織事務所の総合力を活かし、公園内+住宅地隣接の野球場設計経験者を集結します。

幅広い野球人をアドバイザーに招聘

・多様な経験者・現役コーチと共に、これからの野球場づくりを考えます。

全社を挙げたバックアップ体制～野球に精通した企業トップが指揮

・組織力を活かした専門家チームの参画と技術支援による全社的体制をつくります。

手戻りの無いコスト管理を徹底します コスト管理に関する工夫及び管理方針

フロントローディング型コスト管理

・工事費の8割程度が決まる基本設計段階でのコスト管理を重視し、CM担当による3段階のコストチェックで手戻りを防止します。

ローコストスタジアムのポイント

ポイント①：単純な架構とユニット化

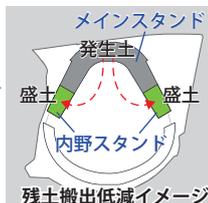
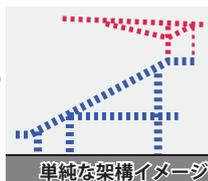
・反復活用できる単純な架構でユニット化を図り、コストのかさむ現場作業を減らします。

ポイント②：盛土スタンドで残土搬出低減

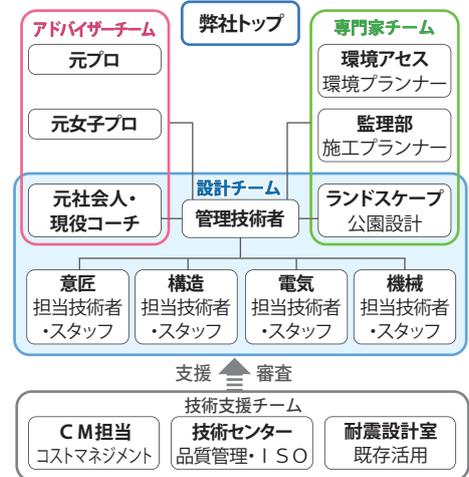
・メインスタンド建設時の発生土を内野スタンド下の盛土に活用し残土処理量を低減します。

ポイント③：スタンド屋根の軽量化

・鉄骨+シート防水屋根+天井レスで構造をスリム化。



企業トップが指揮するメジャーチーム



設計体制イメージ

特に重視する配慮事項 特に重視する設計上の配慮事項

国際基準のユニバーサルデザイン

・多くの人々が集まる野球場のポイントは観客の誘導計画です。設計実績を活かしたグラフィカルなサインを提案します。

スケジュール管理

・スケジュール管理のポイントは、「メインスタンドの早期決定」と「開発行為を避ける」です。密な関係者ヒアリングや行政協議を徹底し、的確に設計に反映します。

SDGs を考慮した

エコロジカルでローメンテナンスな野球場

・野球場の省エネポイントは、「ナイター照明の消費電力低減」と「オフシーズンの稼働率に応じた空調計画」です。照明のLED化や個別空調システムの採用を検討します。
 ・リサイクル素材を基本に、清掃性と耐久性の高いローメンテナンス素材を選定します。スパイクで土を持ち込む選手ゾーンの床材や雨ざらしの観客シート等、配慮します。

アフターコロナの感染症対策を考える

・アフターコロナにおいても換気量の確保は必須の課題です。基準を上回る機械換気量の確保に加え、自然通風の確保を徹底します。

評価テーマ① 「これからの市民運動公園野球場の在り方」 についての提案

公園に開かれた「オープスタジアム」



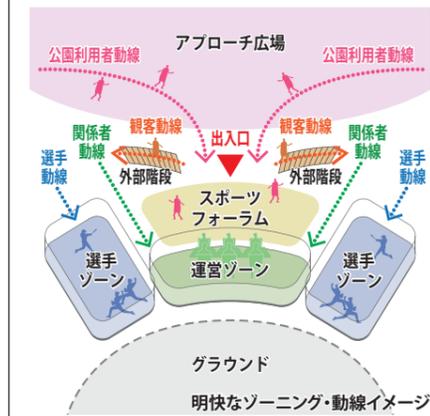
市民が気軽に野球を楽しむことができる
誰もが利用しやすい球場づくり

わかりやすいゾーニング：エントランスを兼ねるスポーツフォーラムを中心に、グラウンドに面した運営ゾーン、その両側に選手ゾーンを配置したゾーニングにより、市民が利用しやすい計画とします。

動線の交錯を避ける：観客はスポーツフォーラム前のアプローチ広場に設けた外部階段から、選手・大会関係者は専用出入口から、各々の動線が交錯しないわかりやすい計画です。

ヨコ型ブルペンでコンパクト化：選手ゾーンはブルペンを一般的なタテ型ではなくヨコ型に配置します。それによりダッグアウトに更衣室・ブルペンを隣接できます。少年野球のコーチも児童に目が行き届く安心な計画です。

バリアフリーなこれからの野球場：ダッグアウトは手摺・天井高さを十分確保する安全対策を行った上で、グラウンドと段差のない計画とします。



公園に開かれた市民球場づくり

野球利用者のみならず、公園を訪れた人々が気軽に野球を楽しむきっかけをつくるしかけを共に考えます。

スポーツフォーラム～市民を誘う

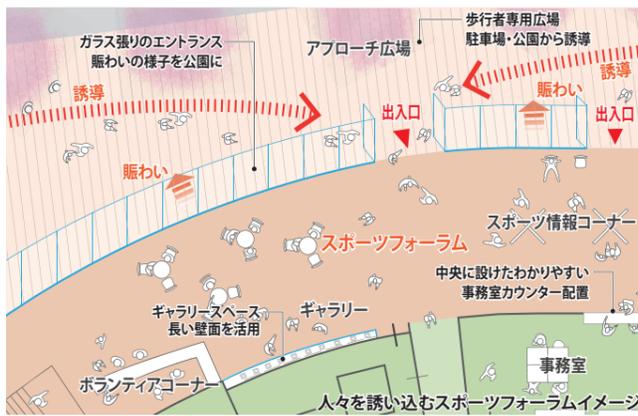
野球利用者以外は立ち寄りづらい球場のエントランスホールを開放的な設えとします。賑わいの様子が公園へ透け、野球への関心を誘います。

多目的広場～キャッチボールから始める

交差点に面し視認性の良いオープンスペースに多目的広場を設けます。観戦以外にも野球に触れ合う機会が生まれます。

ヨコ型ブルペン～広場と野球場をつなぐ

ブルペンのヨコ型配置により、選手ゾーンの集約化が図れるとともにブルペンを通してグラウンドと多目的広場が空間的につながります。多目的広場側を開放するとトップレベルの練習風景を楽しめたり、球場側も開放して内外一体となった野球イベントに利用するなど、市民の興味をさらに内(球場)へと誘います。

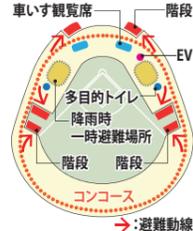


トップレベル仕様を合理的に整備 気軽に安全に見られる施設づくり

屋根のかかるメインスタンド特等席を最大限配置
最も野球競技が良く見えるメインスタンドの座席数を最大限確保します。スタンド中央通路まで屋根を掛け、快適な観戦に配慮します。

バリエーション豊かな観客席
親子で遊びながら観戦ができる親子席や、さくらテラス席など、それぞれ個性を持つ観客席を計画します。様々な視点からトップレベルの野球観戦が楽しめます。

誰もが安心して楽しめる野球場
避難計画：観客席を1周するコンコースに面して階段を配置した、明快で安全に避難できる計画とします。
降雨時配慮：メインスタンド下に一時避難場所を設けます。急な降雨等における観客の一時退避に配慮した計画です。
バリアフリー：1階バックネット裏に設けた車いす観覧室に加え、スタンド1階のコンコースと同レベルに車いす観客席及び多目的トイレを設け、バリアフリーに配慮します。



最大のパフォーマンスを発揮できる施設づくり

トップレベル仕様のグラウンド広さと設備(防球ネット・照明)を確保

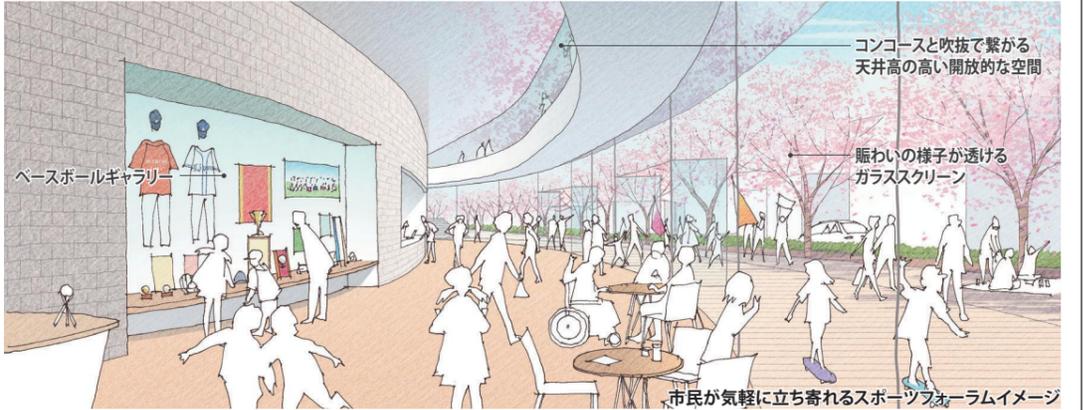
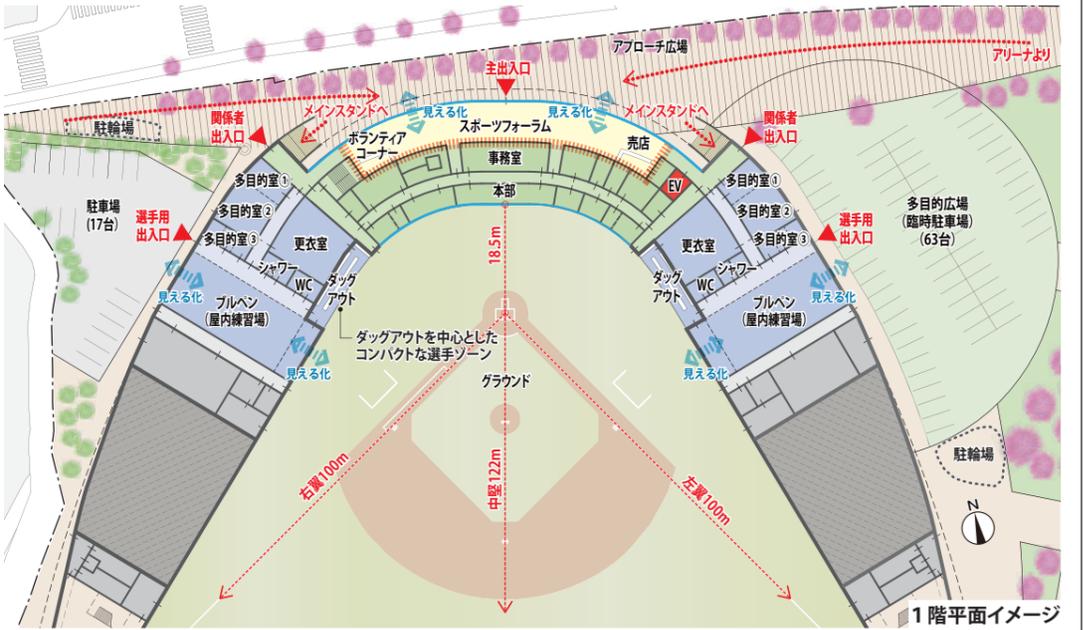
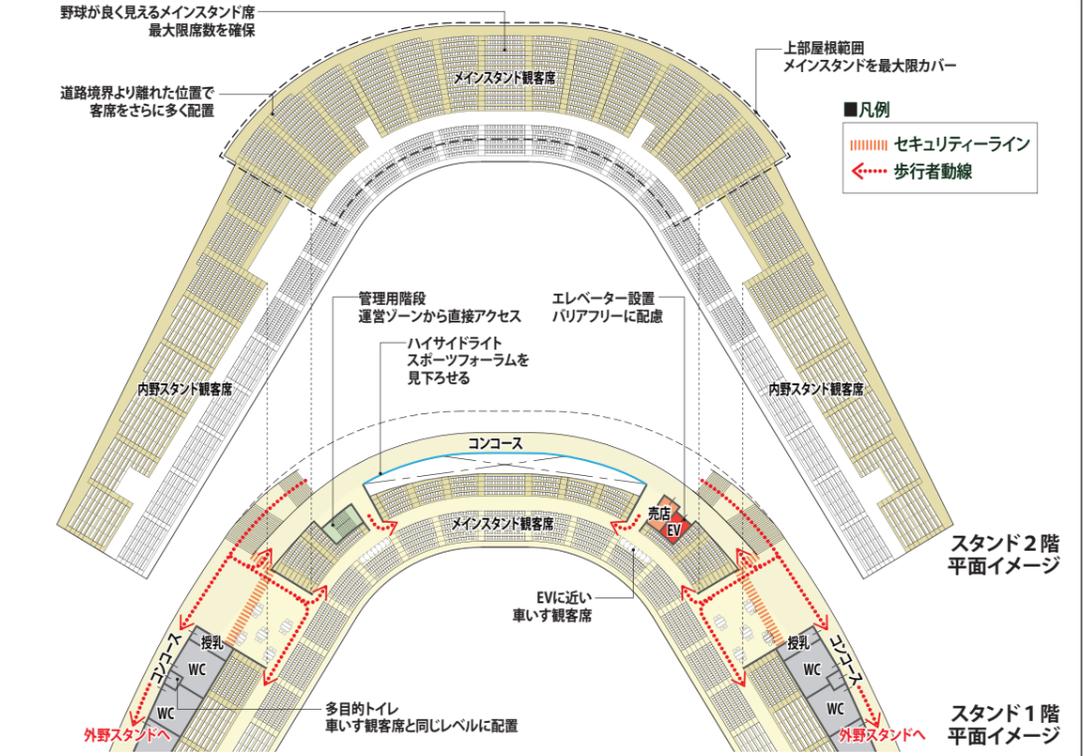
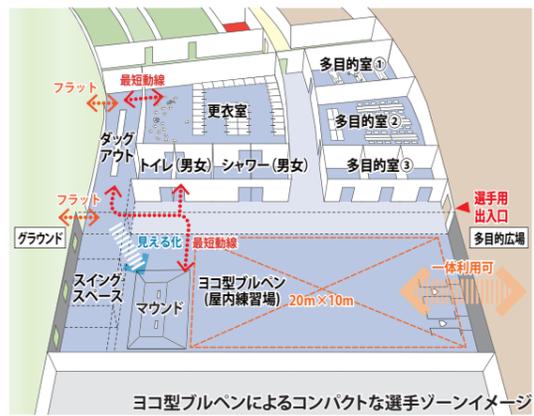
広さ：公認野球場やプロ野球規格も満たすグラウンド寸法(両翼100m, 中堅122m)を確保した計画とします。
ファールポール：プロ野球選手の打球も判別可能なファールポール高さ13.5mを確保します。
防球ネット・照明：打球角を想定した防球ネット高さや打球が見やすいナイター照明など、トップレベルの野球に対応した設備を確保します。

試合時の移動を最小化した選手ゾーン

コンパクトにまとまった選手ゾーンはプロ野球経験者にも好評です。試合中の交代や指示等、瞬時の対応が求められるトップレベルの球場では最優先事項です。

市民～トップ仕様まで考慮したフレキシブル多目的室

観客用大階段下を活用し多目的室を設置します。移動間仕切りで3つに分割可能な仕様とすることで様々なニーズに対応可能です。
プロ招聘時は多目的室①をマッサージルーム、多目的室②をケータリングスペースに、社会人野球・市民大会では多目的室①②を次試合チームの控室として利用できます。多目的室③は親子連れに配慮したキッズルームや、トップレベル使用時の監督・コーチ室・スタッフルームとしても利用できる計画です。



評価テーマ②「敷地条件を活かす配置」についての提案

敷地を余すことなく使い、シンボリックに磨き上げる3つの提案



さくら並木とさくら天井が重奏する「さくらプラザ」イメージ

反射率の高い天井イメージ

誰もが訪れやすいアプローチ

周辺道路や公園内施設からの歩行者・車両の進入動線を確保

野球場へと歩行者を安全に導く

- 野球場の主出入口が面する敷地北側に、歩行者専用のアプローチ広場を設けます。敷地内・外の駐車場や公園内施設からも桜並木に導かれるように安全に歩行者を誘導します。
- 敷地内全周をめぐる歩道を整備し、分かりやすく安全な歩行者動線を確保します。

駐車場からのアプローチを短縮する～多目的広場(臨時駐車場)

- 多目的広場は大会時の臨時駐車場として活用できる計画とします。アプローチに面した配置で、車利用者の利便性を高めます。

市民利用から日立市長杯、プロ野球まで、あらゆるシーンで分かりやすいスムーズな動線計画

- 多目的広場の駐車場活用により、イベントに応じた駐車スペースと周辺道路や公園施設からの明快な歩行者・車両動線を確保できる計画とします。

安全で渋滞を緩和する車両出入口

- 駐車場への出入口は周辺道路の交差点から離隔を確保した安全な配置とし、IN・OUTを分離することで、東・北側道路の渋滞を避ける計画とします。

大会時の選手バスの乗入れに配慮

- 選手ゾーンに面した西側駐車場と多目的広場臨時駐車場には、選手バスが選手用出入口に寄せられるスペースと動線を確保します。

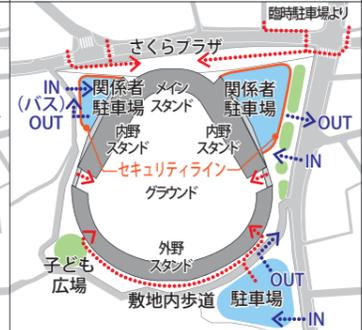
パターン①
市民利用(野球練習・広場利用等)
多目的広場: 広場利用



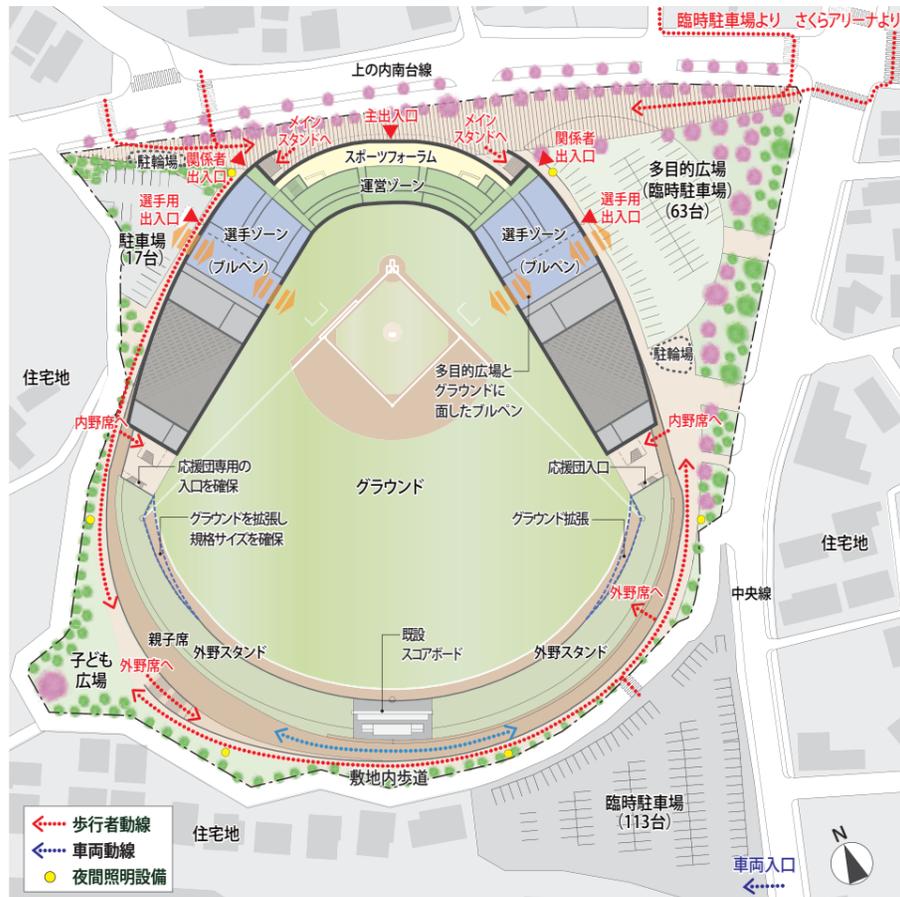
パターン②
市民大会(少年・高校野球等)
多目的広場: 駐車場利用
(一部ウォーミングアップにも使える)



パターン③
トップレベル大会(社会人・プロ野球等)
多目的広場: 関係者駐車場(一般・バス)
(仮設フェンスでセキュリティラインを設置)



イベントに応じた明快な動線イメージ



配置イメージ

公園の設備を補完し新たなランドマークをつくる

市民運動公園内の設備との均衡に配慮し、緑地及び駐車場を確保
さくら並木とさくら天井が重奏する公園の新しい顔「さくらプラザ」
・アプローチには道路に面して市の花(桜)を植樹し、北側道路の桜並木を強化し、メインスタンド下の天井と重奏します。

公園の緑と連携するまちなみ緑化

- 東側道路に面して豊かな緑地を設けます。北側のさくら並木と緑の帯がつながり、テニスコート・さくらアリーナ前の緑とも連携する交差点の顔づくりです。

公園と調和する豊富な緑化計画

- 敷地境界沿いは既存樹を活かしながら緑化します。緑の補完により、建築(野球場)とランドスケープ(公園)との一体化を図ります。

多目的広場を活用し駐車台数を増やす(最大193台確保)

- 多目的広場を活用し63台の臨時駐車場を確保します。西側と合わせて80台を利便性の高いメインスタンド側に整備する提案です。南側臨時駐車場と合計193台を敷地内に確保します。

近隣住宅への影響にも配慮した、敷地の効率的な活用を考慮

敷地を有効活用し公園らしい景観をつくる

南西側住宅地前への車両進入を防ぐ駐車場計画

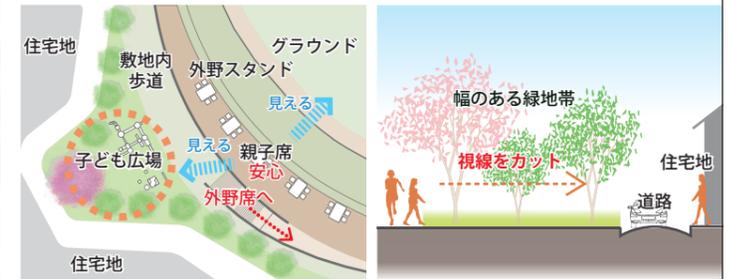
- 大会時の多目的広場活用により、駐車台数を+63台確保し、住宅地前の路上駐車等の影響を低減します。
- 西・南側駐車場へのアプローチは出来る限り幹線道路側に寄せ、住宅地前道路の安全性を確保します。

東側・南西側の住宅地前に緑の緩衝帯を設置

- 住宅地前に設けた幅のある緑地帯は住宅のプライバシーを守るとともに、広場からの子どもやボールの飛び出し防止にも役立つ安心安全な提案です。

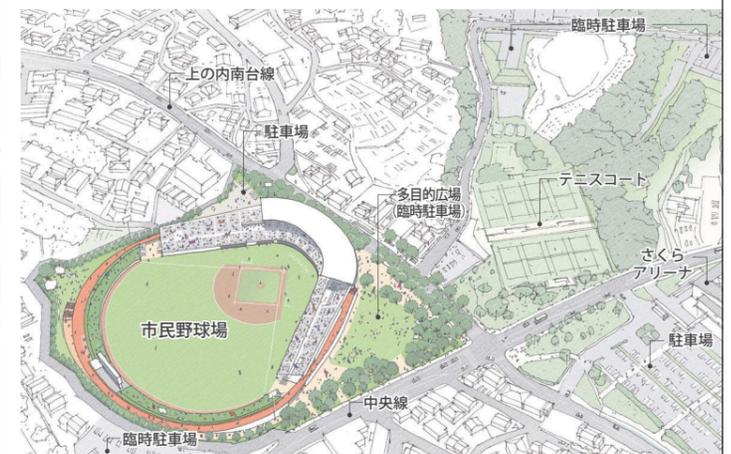
南西の安全で静かな環境を活用した公園

- 車両通行の少ない南西側緑地を「子ども広場」として整備します。未活用の現況緑地部分を子どもから親まで安心して使える居場所づくりに磨き上げる提案です。



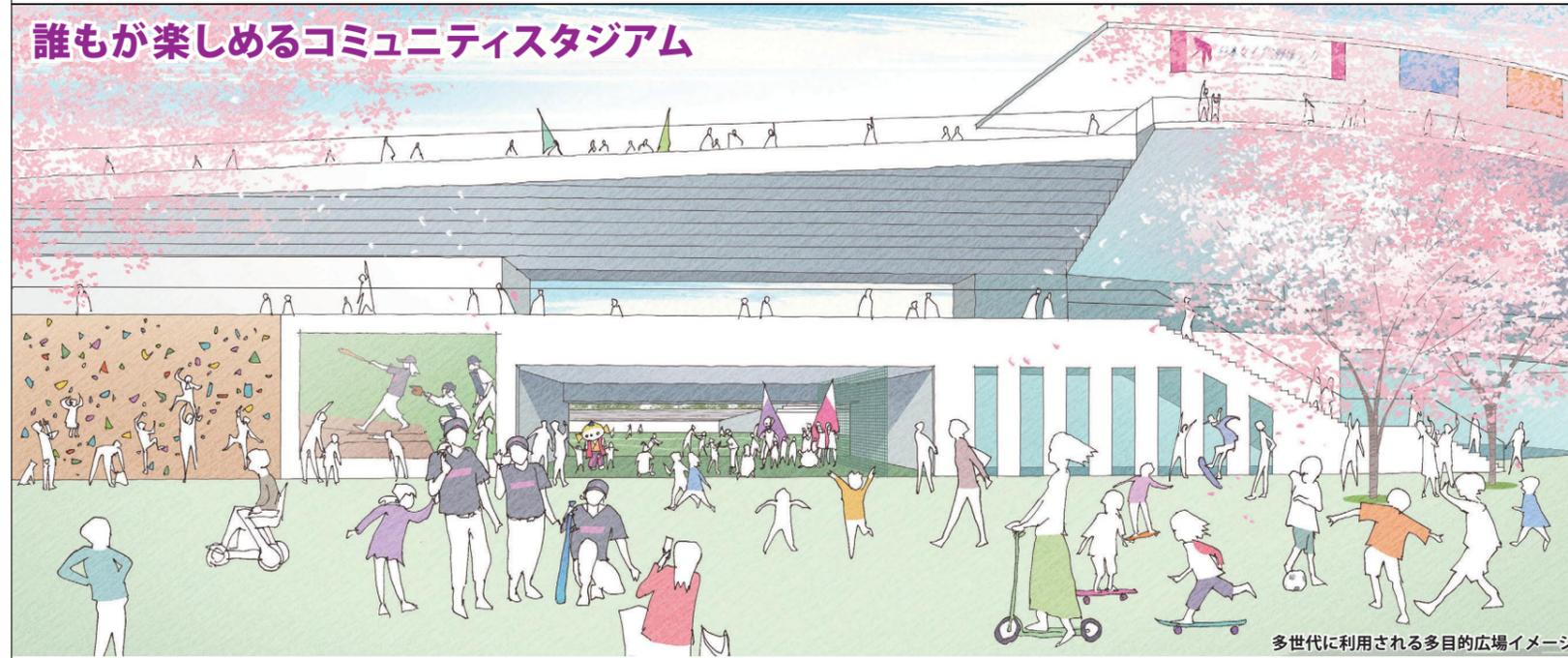
子ども広場イメージ

緑の緩衝帯イメージ

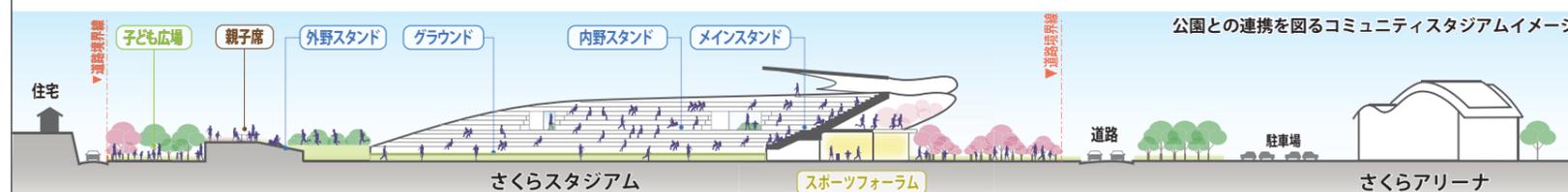


公園と調和する野球場のイメージ

誰もが楽しめるコミュニティスタジアム



多世代に利用される多目的広場イメージ



公園との連携を図るコミュニティスタジアムイメージ

公園との調和と創造

公園施設との連携

緑に浮かぶおらかなスカイライン～「ウェーブブルーフ」

・さくら並木に浮かぶ屋根は、観戦の熱気を表現するとともにさくらアリーナの屋根形状と呼応する景観づくりの提案です。

運動をテーマにした広場をつくる～「多目的広場」「子ども広場」

・公園機能として人気の高い多目的な広場と、子ども向け広場を新たに設け、運動公園を成熟させます。

公園、野球場を見渡すランニングコース～「空中リング」

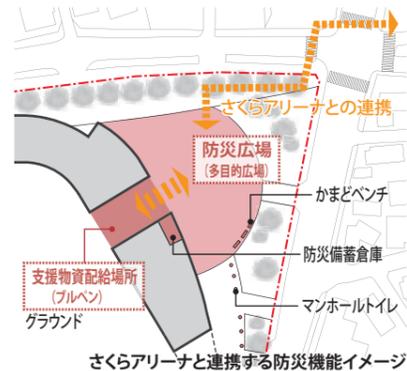
・観客席の後方通路を活用したランニングコースを整備します。1周約500mのコースは、さくらプラザから階段を上り、スタンド2階から様々な視点でグラウンドと公園の景色を同時に楽しめる公園野球場ならではのコースです。

公園の防災機能を強化「防災にも役立つ多目的広場」

・茨城県広域避難場所内の野球場として、さくらアリーナをサポートします。多目的広場は防災広場として位置付け、防災備蓄倉庫・マンホールトイレ・かまどベンチを整備します。隣接した雨に濡れないブルペン（屋内練習場）は支援物資（水、食料）配給場所としても活用できる計画です。



ウェーブブルーフイメージ



さくらアリーナと連携する防災機能イメージ

誰もが立ち寄りたくなる公園のオアシスをつくる

都市公園としての市民の憩いの場の提供について

様々なイベントに使える「多目的広場」「ブルペン」

・野球場のグラウンドと多目的広場双方に面したブルペンは、境界の壁を開放できる設えとします。各々での単独のイベントから、グラウンド・ブルペン・多目的広場が一体となった祭典まで幅広いイベントニーズに応えます。閉ざされがちな野球場施設を市民の憩いの場として解放する提案です。

多用途に活用できる「ブルペン」「多目的室」

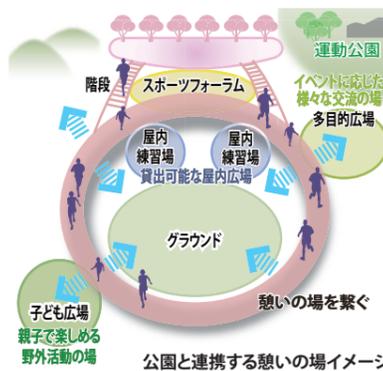
・ブルペンと多目的室は多目的広場から直接出入りできる計画とします。野球場のセキュリティを守りながら貸し出し可能です。

新たな桜名所

・北側道路に面したアプローチ空間の立体並木は SNS 映えする桜名所として人々を呼び寄せます。

都市公園の休憩ラウンジ「スポーツフォーラム」

・アプローチ空間に面したスポーツフォーラムはガラス張りの開放的な設えとします。桜を見ながら会話も弾むカフェのような市民サロンづくりの提案です。



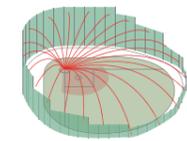
公園と連携する憩いの場イメージ

多様な要望にこたえる仕掛けを考える

「する」「みる」「支える」様々な視点への対応

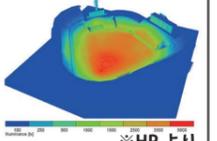
プロも思い切りプレイできる安全な球場設備

プロの飛距離でも安心な防球ネット
 ・飛球シミュレーションにより野球に最適な防球ネットの配置、高さを設定します。
 ・近隣住宅にとって安全な環境を整えます。



飛球シミュレーションイメージ

選手・近隣双方に配慮された夜間照明設備
 ・照明シミュレーションにより選手がプレーしやすい夜間照明の配置・高さを設定します。
 ・遮光ルーバー・小庇等対策を施し、近隣住宅への眩しさを排除します。



照明シミュレーションイメージ

多世代が楽しめるバリエーション豊かな観客席

メインスタンド（特等席）

・屋根の付く特等席。真夏でも多くの方々が熱戦を快適に観戦できる計画とします。



メインスタンドイメージ

親子席

・子ども広場に隣接して「親子席」を設けます。観戦の合間に子どもも広場で遊べる、子育て世代にやさしい観客席の提案です。



親子席イメージ

ながら席

・歩きながら、談話しながら気軽に観戦できます。野球を身近に感じられる第1歩となります。



ながら席イメージ

「支える」人にとっても使いやすい諸室の整備

確実なセキュリティライン

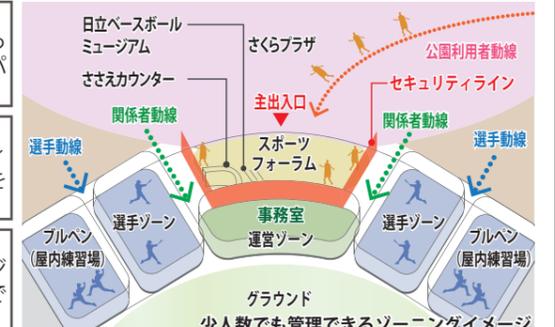
・スポーツフォーラムの市民開放は野球場運営者にとって稀な形態です。少人数でも確実に管理できるコンパクトなゾーニングとセキュリティラインを計画します。

「ささえカウンター」

・スポーツフォーラム内に、野球を支える地域ボランティア活動のカウンターの設置を提案します。野球人が顔を出す魅力発信の場となります。

ベースボールミュージアム

・カウンター横に、壁面を活用したベースボールミュージアムを提案します。市民にも広くアピールする計画です。



女子野球やパラ野球も快適に利用できる新しい野球場のかたち

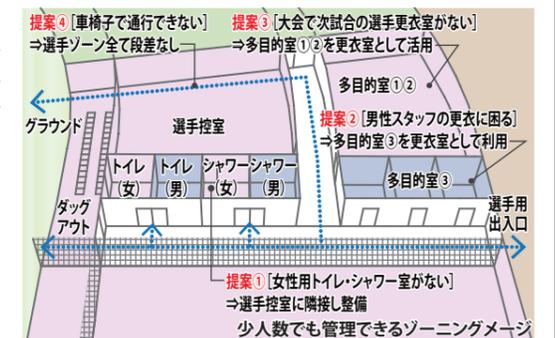
多様な野球ニーズへの対応

女子野球対応スタジアムづくり

・女子野球人口は11年連続で増加しています。全国高等女子公式野球大会も盛り上がる中、女子野球の誘致に寄与し、球場の稼働率を上げる計画を提案します。関係者へのヒアリングを元に最適な環境を整えます。
 (右図提案①～③)

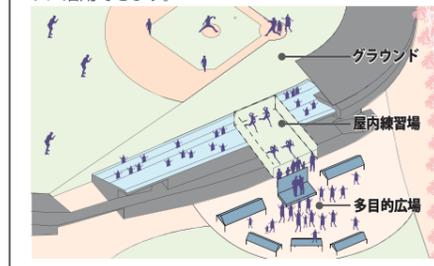
段差のない安全な計画でパラ野球にも対応

・東京パラリンピックを経て注目度が高まるパラ野球・パラソフトへの対応を提案します。
 (右図提案④)

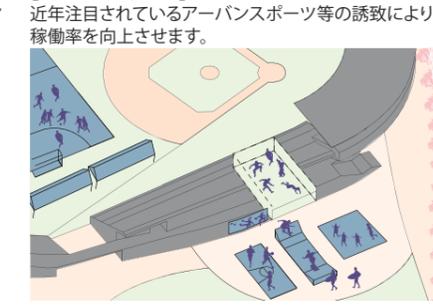


様々なイベント対応例イメージ

【トップレベル野球】グッズ販売やピッチング練習の公開など、ファンイベントに活用できます。



【アーバンスポーツ】近年注目されているアーバンスポーツ等の誘致により、稼働率を向上させます。



【野外劇場】日立市ゆかりの文化活動の場としての活用も可能です。

